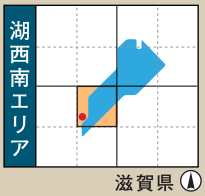
名勝史跡
国指定

善法院庭園（ぜんぽういんていえん）

大津市園城寺町　昭和9年12月28日指定



西国三十三所観音霊場第十四番札所として親しまれ、天台寺門宗本山として名高い園城寺には、多数の文化財が伝えられています。光浄院庭園とともに、善法院に伝えられたこの庭園もその一つでしたが、昭和16年に起きた山津波により大きな被害を受けています。

当時のできごと	
866年	応天門の変
1603年	徳川家康 江戸幕府を開く
1721年	目安籍を評定所前に設置

園城寺（三井寺）について

三井寺の名は、天智、天武、持統の3人の天皇の産湯に使われたと伝えられる、閼伽井（あかい）と呼ばれる井戸（御井：みい）から呼ばれるようになった、と伝えられます。寺伝によれば、天智天皇７年（668）に教持和尚によって開かれたとありますが、白鳳期に、在地の豪族により建立された寺院が、前身となっていると考えられます。

貞観4年（862）に円珍（智證大師）が園城寺の別当となって以来、天台宗徒により復興され、貞観8年(866)には天台別院として、延暦寺の支配下に入ります。円珍の死後、円珍の弟子は、円仁の弟子達と激しく抗争し、正暦4年（993）山を降り、園城寺に入り、天台宗寺門派として永く延暦寺（山門派）と抗争を繰り広げることになります。江戸時代に入ってからは、徳川幕府の厚い庇護を受け、寺領4600石を与えられ、3谷・49院・25坊といわれる堂塔院坊が整備され、今に多くの文化財を伝えています。



中島と石橋（写真提供：園城寺）

善法院について

善法院は、もとは円満院宮の住んだ格式の高い住坊で、「三井寺六学室」の一つにも数えられていました。昭和30年代まで寝殿造り風の優雅な建物が残されていましたが、残念ながら今は失われています。

昭和16年（1941）6月25日から降り続いた豪雨は、山津波を引き起こし、善法院の庭園をのみこんでしまいました。その後、昭和60年代より発掘調査を実施し、往時の姿を蘇らせる試みが行われていますが、現在のところ、完全な姿を現すまでには至っていません。



中島と石橋（写真提供：園城寺）

善法院庭園

善法院庭園は、今は、発掘調査によって現れた庭を部分的に見るのみですが、享保年間（1716～36）に刊行された『近江輿地史略』や『築山庭造伝』にはこの庭が紹介され、広く知られた名庭であったことがわかります。築庭の時期は明らかではありませんが、桃山後期から江戸時代初期と考えられています。

庭園は、北と西に山をひかえた書院の前庭で、前面に東西に大きく広がる北池と、南側に南北に延びる南池の二つの池を配し、それぞれに中島を設け、それぞれに石橋を架けます。庭の西端には、山の水を導いた滝石組があります。北池の最奥部には、舟石を中心とした巨石が並び、その前の池汀には高さが2m程もある三尊石を配し、この庭の主景としています。

江戸時代の記録によれば、池右手の築山には「腰掛松」と呼ばれる大きな松があり、その枝を低く広く池の上に広げていたということです。



石橋と地護岸（写真提供：園城寺）

関連する文化財

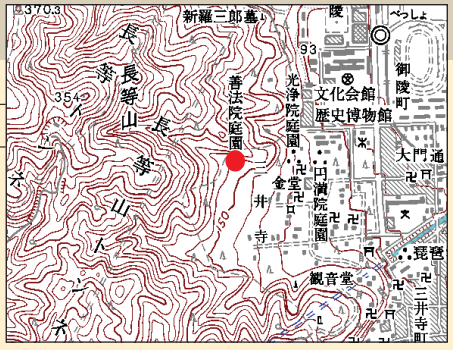
名勝史跡光浄院庭園（大津市）	学習シートNo.107
園城寺境内（大津市）	三井の晩鐘で名高い。国宝の本堂を始め多くの堂舎が立ち並ぶ。また観音堂は西国三十三観音霊場として賑わいを見せる

もっと深く知りたい

大津市歴史博物館	☎077-521-2100　大津市御陵町2-2
大津市教育委員会	☎077-528-2638　大津市御陵町3-1

※この庭園は通常は非公開となっています

善法院庭園へのアクセス　JR湖西線　西大津駅下車
京阪電鉄石坂線　別所駅下車



【参考文献】〔日本庭園史体系〕社会思想社

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　平成16年3月